



今日のトピック ブラジルの金融政策：年金改革にらみ現状維持（2019年6月）

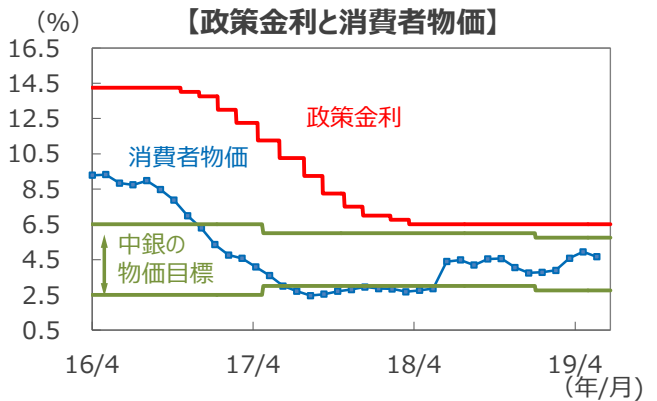
政策金利据え置き、年金改革の進展見守る

ポイント1 6.50%に据え置き
市場の予想通り

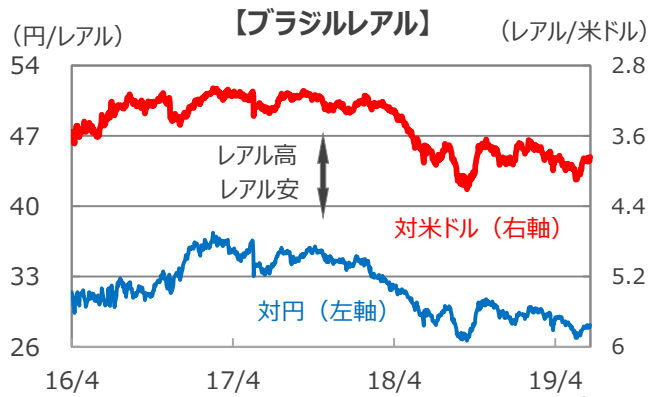
- ブラジル中央銀行（以下、中銀）は、6月19日の金融政策委員会で、政策金利を6.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。政策金利据え置きは10会合連続で市場の予想通りでした。

ポイント2 物価は目標の範囲内
経済悪化でインフレ期待高まらず

- 足許のインフレ率は中銀の目標範囲（4.25% ±1.5%）内で推移しています。ブラジルの2019年1-3月期の実質GDP成長率は前期比▲0.2%のマイナス成長となり、景気は悪化傾向にあります。
- 声明では、昨年後半から低成長が続いているものの、今後は緩やかな景気回復に向かうとの見方が示されました。但し、外部要因として世界経済の減速リスク、内部要因として年金改革法案の先行き不透明感からインフレが上向きリスクを指摘し、現時点では年金改革を巡るリスクが高いと述べています。今後の金融政策については経済活動やインフレ等の状況次第としました。



（注）政策金利は2016年4月1日～2019年6月20日。
消費者物価は前年同月比、2016年4月～2019年5月。
（出所）Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に
三井住友DSアセットマネジメント作成



（注1）データは2016年4月1日～2019年6月19日。（年/月）
（注2）レアル/米ドルは逆目盛。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセット
マネジメント作成

今後の展開 ブラジルレアルは底堅く推移

- 中銀は、弱い経済と年金改革法案の進展を巡る政治的な不透明感の間で難しい調整を強いられています。年金改革法案は議会での審議が継続しており、今後の動向が注目されていますが、米国などの先進国をはじめ世界的に利下げ圧力が高まっている中、市場の一部では中銀が国内景気支援のため年内に利下げを行うとの見方もでてきます。
- レアルは引き続き、年金改革法案を巡る政治的な動向や、ハト派的な姿勢を強めた米国の金融政策動向などの外部環境に左右される展開が見込まれます。但し、年金改革法案に徐々に進展がみられることや、米国など各国中銀の金融緩和姿勢を背景としたブラジルの相対的な金利の高さがレアルを支えると考えます。

ここもチェック! 2019年6月20日 米国の金融政策：ハト派姿勢を強調（2019年6月）
2019年5月15日 ブラジルの『年金改革』法案は年内に成立する？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。